

1 政策の評価票

(1) 政策分野 **A** (viページ以下「政策の評価票の見方」参照)

平成23年度から10年間の都市経営の基本である「はばたけ未来へ！京プラン（京都市基本計画）」（以下「京プラン」といいます。）で示された市全体の総合的な政策体系を構成する27の項目です。

(2) 基本方針 **B**

この政策の実現に向けて今後10年間で取り組む方針として「京プラン」で示された内容を要約しました。

(3) 担当局、共管局 **C・D**

この政策を担当する局名を記載し、その政策を共管する局がある場合は、その局名を記載しました。

(4) 客観指標評価

この政策の状態を示す客観的な指標について、数値と評価を記載しました。

この政策の各指標につきa～eの5段階で評価を行ったうえで、各指標の評価結果を総合化し、当該政策の客観指標全体の評価をa～eの5段階で行います。

ア 各指標の23年度評価値と32年度目標値 **E・F**

「京プラン」初年度の平成23年度に評価した実績値（平成24年度から評価を開始した指標については、平成24年度に評価した実績値）を記載しました。

また、「京プラン」の最終年度である平成32年度までに達成すべき目標値を設定している場合は、「32年度目標値」として記載しました。

これらの数値は、毎年度の評価値と併せて進捗状況を見るため、今後も記載します。

イ 各指標に係る最新値等の数値 **G～J**

「前回値」は、「最新値」の1回前の調査等で把握された実績値です。

「最新値」は、今年度の評価対象となる最新の実績値です。評価時点で把握できる最新の年度又は年の数値で、基本的には平成23年度の実績値です。

「目標値」は、今年度の評価において達成すべき目標値です。

「達成度」は、「目標値」に対する「最新値」の達成割合を%で示したものです。

ウ 各指標の評価 K

それぞれの評価基準に基づき、各指標の評価を a～e の 5 段階で示しました。

《各客観指標の評価方法》

- 主に次のような方法で 5 段階評価しました。
 - ・単年度の目標を設定しその達成度により評価する方法
 - ・中長期的な目標に対する進捗状況により評価する方法
- 5 段階評価の基準や指標の説明など、個々の客観指標の詳細については、別冊「客観指標基礎データ」を御参照ください。

エ 客観指標総合評価 L

この政策に係る各指標の評価結果を総合化した「客観指標総合評価」を記載しました。

《総合化の方法》

- ① 各指標の評価結果をそれぞれ点数化し（a＝4 点，b＝3 点，c＝2 点，d＝1 点，e＝0 点），合計する。
- ② 各指標が全て a 評価であった場合の最高点を計算する。
- ③ 合計点（①）の最高点（②）に対する割合を計算する。
- ④ ③の割合により以下のとおり評価する。
 - a：80%以上 100%以下 （大変良い状況にある）
 - b：60%以上 80%未満 （やや良い状況にある）
 - c：40%以上 60%未満 （（状況は）どちらとも言えない）
 - d：20%以上 40%未満 （やや悪い状況にある）
 - e： 0%以上 20%未満 （大変悪い状況にある）

オ 過年度の客観指標評価 ※

今年度の評価と併せて、前年度及び前々年度の評価を記載し、経年変化を示します。
ただし、今年度は「京プラン」に基づく 2 年目の評価であることから、前々年度の結果を記載する欄には全て「-」を記載しました。

なお、同じ理由から、その他の項目においても、前々年度の記載欄（※）には、全て「-」を記載しました。

(5) 市民生活実感評価 M・N

市民生活実感調査の結果を受けて、この政策に関する各設問につき a～e の 5 段階で評価を行ったうえで、各設問の評価結果を総合化し、当該政策の市民生活実感調査全体の評価を a～e の 5 段階で行います。

《各設問の評価方法》

無作為抽出した市民 3,000 人を対象にアンケートを行い、各設問に対して「a：そう思う」、「b：どちらかというと思う」、「c：どちらとも言えない」、「d：どちらかというと思わない」及び「e：そう思わない」から一つ選んで回答していただき、これを点数化して 5 段階評価（a～e）を行う。

➤点数化の方法

- ① 総回答数のうち、無回答のものを除いて有効回答数とする。
- ② 各回答について「そう思う」に2点、「どちらかというと思う」に1点、「どちらとも言えない」に0点、「どちらかというと思わない」に-1点、「そう思わない」に-2点を乗じ、それらの合計を有効回答数で割ったものを合計点とする。

算出例

そう思う	どちらかというと思う	どちらとも言えない	どちらかというと思わない	そう思わない	無回答	総回答	有効回答
37	93	81	28	20	23	282	259

$$\frac{37 \times 2 + 93 \times 1 + 81 \times 0 + 28 \times (-1) + 20 \times (-2)}{259} = 0.382$$

➤5段階評価の方法

合計点に応じて評価する。

- a: 0.8以上 (大変良い状況にある)
b: 0.3を超え 0.8未満 (やや良い状況にある)
c: -0.3以上 0.3以下 ((状況は) どちらとも言えない)
d: -0.8を超え -0.3未満 (やや悪い状況にある)
e: -0.8以下 (大変悪い状況にある)

算出例の場合 0.3 < 0.382 < 0.8 ⇔ b 評価

《総合化の方法》

客観指標総合評価の「総合化の方法」と同じ

(5) 政策の重要度（27政策における市民の重要度） ☒

市民生活実感調査において、27の政策分野の中から重要と思われるものを5つまで選んでいただき、それぞれの順位と割合を記載しました。

(6) 総合評価 ☒

客観指標総合評価結果と市民生活実感総合評価結果を基に、総合的な観点から、政策目的の評価年度における達成状況を5段階（A～E）で評価しました。その原因分析等も併せて記載しました。

A～Eの評価は、概ね次のような区分です。

- A: 政策の目的が十分に達成されている
B: 政策の目的がかなり達成されている
C: 政策の目的がそこそこ達成されている
D: 政策の目的があまり達成されていない
E: 政策の目的が達成されていない

(7) **この政策を構成する施策とその総合評価** Q・R

この政策を実現するための施策をその評価結果と共に記載しました。

該当する施策評価票の掲載ページも併せて記載しました。

(8) **今後の方向性** S

政策の評価結果を受けた今後の方向性について記載しました。

2 施策の評価票

(1) **施策名** a (Ⅷページ以下「施策の評価票の見方」参照)

政策を推進するための個々の具体的な方針として「京プラン」で示した114の推進施策です。

(2) **概要** b

この施策で実現しようとしている内容を記載しました。

(3) **担当局・部室，共管局・部室** c・d

この施策を担当する局・部室の名称を記載し，その施策を共管する部署がある場合は，その局・部室の名称を記載しました。

(4) **上位政策** e

この施策の上位にある政策分野を記載しました。

(5) **施策に関連する主な分野別計画等** f

この施策に関連する主な計画名等を記載しました。

(6) **客観指標評価**

この施策の状態を示す客観的な指標について，数値と評価を記載しました。

記載事項に関する説明は，政策の評価と同じです。

*** 指標のウェイト（施策指標のみ）** g

一つの施策に客観指標が複数ある場合で，施策に占めるウェイトが高いものとならないものがあるときは，3種類のウェイト付けを行います。

- 1. 0倍　：通常
- 0. 5倍　：ウェイトがやや小さい
- 0. 25倍：ウェイトが小さい

個々の客観指標評価の点数（a＝4点，b＝3点，c＝2点，d＝1点，e＝0点）にウェイトの倍数を乗じて，客観指標総合評価を行います。

(7) **市民生活実感評価** h

政策の評価と同じです。

(8) 総合評価 i

客観指標総合評価結果と市民生活実感総合評価結果を基に、5段階（A～E）で評価しました。

A～Eの評価は、概ね次のような区分です。

- A：施策の目的が十分に達成されている
- B：施策の目的がかなり達成されている
- C：施策の目的がそこそこ達成されている
- D：施策の目的があまり達成されていない
- E：施策の目的が達成されていない

(9) 重み付け j

客観指標総合評価結果と市民生活実感評価結果が異なる場合にどちらを重視するかを理由と共に示しました。例えば、前者がA評価、後者がB評価で、重み付けが前者の場合、総合A評価となります。

(10) 原因分析 k

評価結果の原因分析を記載しました。

(11) この施策を構成する事務事業 l・m

参考として、施策を構成する事務事業を掲載しました。掲載内容は、平成24年度に実施した事務事業評価の対象事業が中心です。

事務事業評価制度は、事務事業ごとに明確な目標を設定し、定期的な進捗管理と実績による達成度などを評価することによって、それぞれの事務事業がどの程度実施目的に即しているか、また、最小の経費で最大の効果を挙げているかなどを客観的に測定するとともに、見直しの必要性を明確化し、効果的、効率的な改善を継続的に行うものです。

表中の「目標達成度評価」(m)は、事務事業評価における評価項目の一つで、事業目的を何らかの数値（「指標」とその「目標値」）で表し、次の方法により目標達成率を算出したうえで、一定のルールに従って5段階で評価されます。

なお、同評価は、一般型及び公の施設型においてのみ実施されています。

「目標達成率」＝「当該年度の指標の実績値」÷「指標の目標値」

※評価のルール

- 「かなり良い」：100%以上
- 「良　　い」：100%未満80%以上
- 「普　　通」：80%未満50%以上
- 「悪　　い」：50%未満30%以上
- 「かなり悪い」：30%未満

(12) 今後の方向性 n

施策の評価結果を受けた今後の方向性について記載しました。

政策評価票の見方

政策番号	1	政策分野	環境	A
基本方針	豊かな森林資源、伝統文化、進取の気性と創造の力など、京都のまちの特性をさらに高め、京都のまちがもつ「市民力」や「地域力」を総結集し、自然環境を気遣う「環境にやさしいまち」の実現をめざす。			
担当局	環境政策局	C	共管局	D

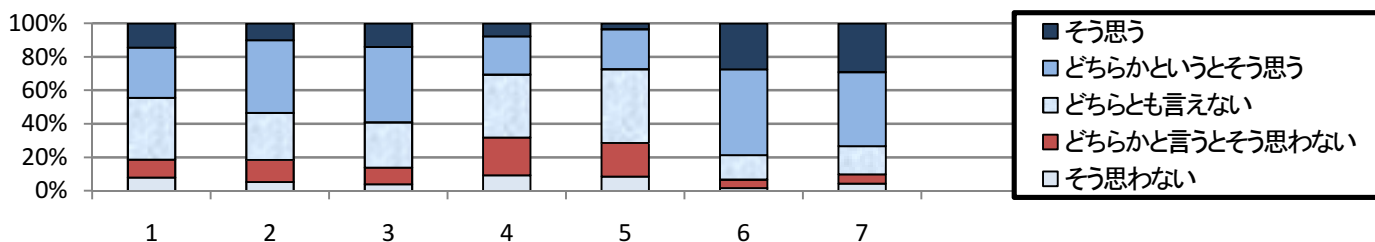
政策の評価

1 客観指標評価

指標名	23年度 評価値	32年度 目標値	N-2 年度	N-1 年度	N年度評価				
					前年度	最新値	目標値	達成度	評価
1 温室効果ガス排出量削減率(1990年度比)(%)	E	F	※		G	H	I	J	K
2 本市が受け入れるごみ量(トン)									
3 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
客観指標総合評価									L

2-1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		N-2年度	N-1年度	N年度
1	京都の子どもたちは、山紫水明の自然環境をかけがえのないものと実感している。	-	-	
2	「きれいな空気、清らかな川、静かなまち」など、よい環境が保たれている。	-	-	
3	省エネや省資源に取り組むひとや、徒歩、自転車、公共交通機関を利用するひとが増えている。	-	-	
4	太陽光発電や使用済み天ぷら油の燃料化など、環境にやさしい技術やエネルギーの活用が進んでいる。	-	M	
5	京都では、環境にやさしい行動を当たり前のこととして実践するひとや事業者が増えている。	-	-	
6	マイバッグやリサイクル製品など、ごみを出さないようなくらしと事業活動が広がっている。	-	-	
7	ごみを分別して出せる拠点が身近にあり、ごみのリサイクルが進んでいる。	-	-	
8	-	-	-	-
市民生活実感調査総合評価				N



2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

N-2年度		N-1年度		N年度	
順位	%	順位	%	順位	%
-	※	-	-		○

3 総合評価

-	-		
【客観指標】・ ・ 【市民の実感】・ ・ 【総括】・ ・		N-1年度	-
		N-2年度	- ※

今後の方向性の検討

<この政策を構成する施策とその総合評価>

施策番号	施策名	評価結果			参照 ページ
		N-2	N-1	N	
0101	自然環境とくらしを気遣う環境の保全	-	-		
0102	低炭素型のくらしやまちづくりの実現	※	-	Q	R
0103	ごみを出さない循環型社会の構築	-	-		

<今後の方向性>

S

施策評価票の見方

施策番号	0101
施策名	自然環境とくらしを気遣う環境の保全 a
概要	優れた自然環境を後世に伝えていくため、自動車の排ガス対策等、生活環境保全に向けた取組、環境問題に対する市民の理解と行動を広げる環境学習を推進する。 b
担当局・部室	環境政策局・環境企画部、地球温暖化 c
共管局・部室	d
上位政策	1 環境 e
施策に関係する 主な分野別計画等	京都市自動車環境対策計画、京都市地球温暖化対策計画、 京都市環境モデル都市行動計画 f

施策の評価

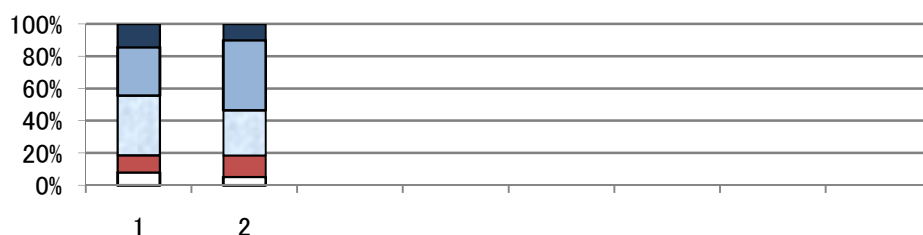
1 客観指標評価

指標名		N-2年度	N-1年度	N年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウエイト
1	エコカーの普及台数(台)	政策評価票と同じ						-	
2	全京都市立小学校における、こどもエコライフ チャレンジ実施率(%)							g	
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
		客観指標総合評価						-	

2 市民生活実感評価

*この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問		23年度回答						
		そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう思わ ない	そう思わ ない	有効回答 者数	評価
1	京都の子どもたちは、山紫水明の自然環境をかけがえのないものと実感している。	h						
2	「きれいな空気、清らかな川、静かなまち」など、よい環境が保たれている。							
3	-							-
4	-							
		市民生活実感調査総合評価						-



- そう思う
- どちらかというと思う
- どちらとも言えない
- どちらかというと思わない
- そう思わない

3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

-	重み付け	☐ 客観指標	-	☐ 市民の実感	-	N-1年度	-
	(重み付けの理由)						
(原因分析)						N-2年度	- ※

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		N年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		N-1年度 決算額	N年度 予算額		
1					
2				m	
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

n
